

第8回 J・ロンドンへの旅の実施とエッセイ集 Vol.6 の発行

会長 辻井 栄滋

2008・子の年が明けました。2007年は「偽」の1年で終結し、まるで明るい見通しが持てませんでした。地球温暖化・各地の紛争・少子高齢化・年金問題等々、数えあげと切りがありません。将来が危ぶまれるほど重大な問題が山積している現代社会・日本の同時代人として、どうも悲観的にならざるを得ません。……………

そんな先行き不安のなかでも、わが J・ロンドン協会は皆様のおかげで元気でした。昨年5月のキャロル・ブルックマンの来日に続き、9月1～8日には第8回 J・ロンドンへの旅を実施しました。鹿児島1名、熊本1名、大阪府1名、京都府・市が私を含め4名の計7名の参加を得て、うち3名が初参加でした。前回(2006年)参加者が2名おられたので、同じ所はできるだけ避けようと、今回もない知恵を絞りました。とりわけ、ロンドン・スポット以外ではほとんどすべてを初めての所にしたこともあって、私にとっても実に鮮度の高い「旅」となりました。今回はおまけに、また2年ぶりに『醸界春秋』という神戸発の雑誌と連載契約を結んだことも手伝って、日頃みなさんに口ぐせのように申し上げている「メモ魔になれ!」を私自身も実践したことでした。(すでに10・11・1月号に3本連載されました。)

キャロル来日の縁で友人となった弁護士のおかげで、なつかしいオークランド・コロシウム(球場)のボックス席(!)でアスレチックス対タイガースの大熱戦を観戦できました。(9月2日)。食文化を探す旅では、「ブーダン・サワードウ」(サンフランシスコの有名なパン)、ジョンズ・グリル(ステーキ)、「フォッグ・ハーバー」(ハンバーガー)、そして「クラブ・ハウス」(蟹料理)など、皆さんに大喜びしてもらいました。ほかに、アルカトラズ島・ピア39の水族館・ナパ谷のワイネリ(「レイモンド」)・日本人街の日本料理店(「たから」)等々、この「旅」ではほぼ初めて尽くしでした。(詳細は、後ろのリレー・エッセイをお読みください。)リピーターが、それも何度も参加されることで、私には同じことのくり返しが許されないのが、これまで8回も「旅」を続けてこられた大きな要因になっているのです。次回は、久しぶりに冬(2009年1月)のベイ・エリアです。J・ロンドン生誕記念パーティにも出席しますので、皆さん、ふるって早めに手を挙げてください。

エッセイ集 Vol.6 発行にもこぎ着けました。今回の特集は、ボクシング小説4篇です。それにしても、J・ロンドンという作家のジャンルは何と多いことでしょう。掘っても掘っても尽きない鉱脈を宿している人で、私などは非才を顧みずにこの人の作品を追いつづけてきて、もう36年にもなるというのにいまだ道半ばなどですから、命がいくつあっても足りないというのが実感です。……………

執筆者も執筆されていない方も、共に Vol.6 を手にされて、その著しい成長の跡を感得されているのでないでしょうか。とにかく読む、くり返し読む。いい作品だと思ったら、なおさらです。読むたびに新しい発見があったり、傍線が引けたり、メモができてゆけば、エッセイはもう半分以上書けたも同然です。ほかの人のことなど、まったく気にする必要はありません。「下手ですが、精いっぱい、心をこめて書く」(石垣りん・詩人)こそが、すべてです。

(2008年1月吉日記す)